

壬午  
三月十日  
黑田清松次友

山院

后

何陋



開拓の儀因より禁禁成聖廟——道路  
成築造する事而已あり人民聚殖之  
方法を務むる——然るを以て學校を  
設け人事を育——第一一人一人を育我  
國を育——物産を成小を育して之を  
富むるなり人々以て事する國家を力——上  
下安富小を育らんことを欲する一の中  
然るを以て育る法は提より善君を教  
育する事なり是れ人事を以て事する事なり

世當校と設常婦道致為訓有  
身既小昨今何と上童女數名を撰而國  
學を修了し其後元女を著成業の上  
國を去る年數に及ぶと山海を儀新産福  
住民を安んずるの爲に大業創業に際他  
日目的を誤り長者を來るるを不爲る可  
以今之童女に而年數を母に如く一  
日と爲るを道と訓爲るに及ぶるを  
西國より來る女を海一名を産むる  
尤如入者も年數を如く自に如く

後同如女急を何也

壬申 月 日 黒田 丹次官

何之通  
山  
限  
隔

